

各位

会社名：株式会社アルチザネットワークス
 代表者名：代表取締役社長 床次 隆志
 (コード番号：6778 東証マザーズ)
 問い合わせ先：取締役管理本部長 高橋 玄太
 (連絡先：042-529-3494)

業績予想の修正に関するお知らせ

直近の業績動向等を踏まえ、平成15年3月5日に公表致しました平成15年7月期業績予想を下記の通り修正致しましたので、お知らせ致します。

記

1. 通期業績予想の修正

平成15年7月期 通期業績予想の修正(平成14年8月1日~平成15年7月31日) (単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成15年3月5日発表)	1,830	50	28
今回修正予想(B)	1,500	50	20
増減額(B-A)	330	0	8
増減率	18.0	0	28.6
前期(平成14年7月期)実績	2,222	594	340

平成15年7月期 事業別売上高通期予想の修正(平成14年8月1日~平成15年7月31日)

(単位:百万円、%)

	プロトコルテストソリューション事業			ネットワーク・ マネジメント・ ソリューション事業
	ATMシグナリング	TDMシグナリング	IPテスト	
前回発表予想(A)	1,045	460	155	170
今回修正予想(B)	945	342	105	107
増減額(B-A)	100	118	50	63
増減率	9.6	25.7	32.3	37.1
前期(平成14年7月期)実績	1,658	273	133	157

2. 業績予想修正の理由

現時点における各事業セグメント別の売上動向に関しましては、以下のように考えております。

【プロトコル・テストソリューション事業】

ATMシグナリング

(国内)株式会社NTTドコモの「FOMA」プロジェクトへの対応が中心となり、安定的な推移が予想されるため、若干額の増額を行い、売上予算928百万円に修正致します。
 (海外)欧州の通信機器メーカーは、次世代通信サービスに向けた研究開発を継続している模様ですが、本格的なサービス開始が遅延しているうえ、業績不振の影響から投資余力に乏しい状況が継続しております。そのため、第4四半期での海外売上の実現可能性は低く、売上計上を見送ることと致しました。
 以上の状況変化を織り込み、国内外を合算した通期売上高は、945百万円を見込むことと致しました。

TDMシグナリング

インターネット電話サービスの市場向けは、加入者数の堅固な推移により、市場黎明期から普及期へ移行しているため、当社が主力とする機器開発用途向けのテストシステムの需要動向は、一巡しつつあります。インターネット電話サービスは、極めて安価なサービスを前提としているため、通信機器の価格も低下しており、当社製品の価格も下落傾向にあります。それらの影響から、想定していた売上予算の実現可能性は低く、売上予算を342百万円に減額することと致しました。

IPテスト

ハイエンド市場向け新製品の開発プロジェクトは、計画通りに進捗しており、第4四半期の販売開始予定に変更はないものの、第4四半期での売上予算達成の実現可能性は低く、減額せざるを得ない状況となりました。以上の状況を織り込み、当セグメントの売上高予算を105百万円と修正致しました。

【ネットワーク・マネジメント・ソリューション事業】

エンタープライズ市場向け新製品の開発プロジェクトは、計画通りに進捗しており、第4四半期の販売開始予定に変更はないものの、第4四半期での売上予算達成の実現可能性は低く、減額せざるを得ない状況となりました。以上の状況を織り込み、当セグメントの売上高予算を107百万円と修正致しました。

上述の事業セグメント毎の進捗状況及び直近の事業環境を前提に業績予想を行った結果、全社売上高は計画未達となる可能性が高く、前回公表の業績予想における売上高予算【1,830百万円(平成15年3月5日公表)】を下回る見通しとなったため、当期業績予想の修正を行うことと致しました。

修正後の平成15年7月期業績は、前期比で大幅減少が避けられず、売上高は1,500百万円(前期比32.5%減)に留まりますが、低採算案件の売上計上を見送り、経費節減に努めることにより、経常利益は50百万円(前期比91.6%減)、当期純利益20百万円(前期比94.1%減)と予想しております。

(注) 本業績予想は、現在入手可能な情報から、当社の経営者の判断に基づき作成しております。従いまして、本業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えられるようお願い致します。また、実際の業績は様々な要因により本業績予想とは、異なる結果となり得ることをご承知おきください。

以上